



LDAP 認証の設定

Cisco Unified Communications Manager では、Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) ディレクトリの設定は次のウィンドウで行います。

- [LDAP システムの設定 (LDAP System Configuration)]
- [LDAP ディレクトリ (LDAP Directory)]
- [LDAP 認証 (LDAP Authentication)]
- [LDAP フィルタ設定 (LDAP Filter Configuration)]

LDAP ディレクトリの情報と LDAP 認証の設定値を変更できるのは、お客様の LDAP ディレクトリからの同期化が Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [LDAP システムの設定 (LDAP System Configuration)] ウィンドウで使用可能にされている場合だけです。



(注)

LDAP 認証を使用するには、ユーザ アカウントが Cisco Unified Communications Manager と同期されている必要があります。管理者は、LDAP 同期化を使用可能にし、LDAP 認証メカニズムを使用するように LDAP ディレクトリ インスタンスを設定する必要があります。

LDAP 認証の情報を設定するには、次のトピックを参照してください。

- 「LDAP 認証の設定値」(P.13-1)
- 「関連項目」(P.13-4)

LDAP 認証の設定値

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、[システム (System)] > [LDAP] > [LDAP 認証 (LDAP Authentication)] メニュー パスを使用して、LDAP 認証を設定します。

認証プロセスでは、システムへのアクセスを許可する前に、ユーザ ID とパスワード/PIN を検証することによってユーザのアイデンティティを確認します。確認は Cisco Unified Communications Manager データベースまたは LDAP 社内ディレクトリに対して行われます。

LDAP 認証を設定できるのは、[LDAP システムの設定 (LDAP System Configuration)] ウィンドウで LDAP 同期化を使用可能にした場合だけです。

同期と LDAP 認証の両方が使用可能になっている場合、システムは常に Cisco Unified Communications Manager データベースに対してアプリケーション ユーザおよびエンド ユーザの PIN を認証します。エンド ユーザのパスワードは社内ディレクトリに対して認証されるので、エンド ユーザは社内ディレクトリのパスワードを使用する必要があります。

同期だけが使用可能になっている (LDAP 認証は使用可能になっていない) 場合、エンド ユーザは Cisco Unified Communications Manager データベースに対して認証されます。この場合、管理者は Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウでパスワードを設定できます。

LDAP 認証の更新のヒント

[LDAP システムの設定 (LDAP System Configuration)] ウィンドウにある [LDAP サーバからの同期を有効にする (Enable Synchronizing from LDAP Server)] チェックボックスの設定によって、認証の設定値を変更できるかどうかが決まります。LDAP サーバとの同期化が使用可能になっている場合、LDAP ディレクトリの情報および LDAP 認証の設定値は変更できません。LDAP の同期化の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「[ディレクトリの概要](#)」(P.19-1) を参照してください。

逆に、LDAP ディレクトリの情報および LDAP 認証の設定値を管理者が変更できるようにするには、LDAP サーバとの同期化を使用不可にする必要があります。

GUI の使用方法

Cisco Unified Communications Manager の管理の Graphical User Interface (GUI; グラフィカル ユーザ インターフェイス) を使用してレコードを検索、削除、設定、またはコピーする方法については、「[Cisco Unified Communications Manager の管理アプリケーションでの操作](#)」(P.1-13) およびそのサブセクションを参照してください。GUI の使用方法とボタンおよびアイコンの機能の詳細が説明されています。

設定値表

表 13-1 では、LDAP 認証の設定値について説明します。関連する手順については、「[関連項目](#)」(P.13-4) を参照してください。

表 13-1 LDAP 認証の設定値

フィールド	説明
[エンドユーザ用 LDAP 認証 (LDAP Authentication for End Users)]	
[エンドユーザ用 LDAP 認証の使用 (Use LDAP Authentication for End Users)]	LDAP ディレクトリとの認証をエンド ユーザに要求するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオフのままにすると、認証はデータベースに対して実行されます。 (注) このフィールドにアクセスできるのは、[LDAP システムの設定 (LDAP System Configuration)] ウィンドウで LDAP 同期化を使用可能にした場合だけです。
[LDAP マネージャ識別名 (LDAP Manager Distinguished Name)]	LDAP マネージャのユーザ ID を入力します。このユーザは、該当する LDAP ディレクトリへのアクセス権を持つ管理ユーザです。 (注) このフィールドにアクセスできるのは、エンド ユーザの LDAP 認証が使用可能になっている場合だけです。
[LDAP パスワード (LDAP Password)]	LDAP マネージャのパスワードを入力します。 (注) このフィールドにアクセスできるのは、エンド ユーザの LDAP 認証が使用可能になっている場合だけです。
[パスワードの確認 (Confirm Password、半角英数字のみ)]	[LDAP パスワード (LDAP Password)] フィールドに入力したパスワードをもう一度入力します。 (注) このフィールドにアクセスできるのは、エンド ユーザの LDAP 認証が使用可能になっている場合だけです。

表 13-1 LDAP 認証の設定値 (続き)

フィールド	説明
[LDAP ユーザ検索ベース (LDAP User Search Base)]	<p>ユーザ検索ベースを入力します。Cisco Unified Communications Manager は、ユーザをこのベースで検索します。</p> <p>(注) このフィールドにアクセスできるのは、エンド ユーザの LDAP 認証が使用可能になっている場合だけです。</p>
[LDAP サーバ情報 (LDAP Server Information)]	
[サーバのホスト名または IP アドレス (Host Name or IP Address for Server)]	<p>社内ディレクトリをインストールした場所のホスト名または IP アドレスを入力します。</p> <p>(注) このフィールドにアクセスできるのは、エンド ユーザの LDAP 認証が使用可能になっている場合だけです。</p>
[LDAP ポート (LDAP Port)]	<p>社内ディレクトリが LDAP 要求を受信するポートの番号を入力します。このフィールドにアクセスできるのは、エンド ユーザの LDAP 認証が使用可能になっている場合だけです。</p> <p>Microsoft Active Directory および Netscape Directory のデフォルト LDAP ポートは 389 です。Secure Sockets Layer (SSL) のデフォルト LDAP ポートは 636 です。</p> <p>社内ディレクトリの設定方法によって、このフィールドに入力するポート番号が決まります。たとえば、[LDAP ポート (LDAP Port)] フィールドを設定する前に、LDAP サーバがグローバル カタログ サーバとして機能するかどうかや、設定で LDAP over SSL が必要かどうかを決定します。次のポート番号のいずれかを入力することを考慮してください。</p> <p>LDAP サーバがグローバル カタログ サーバでない場合の LDAP ポート</p> <ul style="list-style-type: none"> 389 : SSL が不要でない場合 (このポート番号は、[LDAP ポート (LDAP Port)] フィールドに表示されるデフォルトです)。 636 : SSL が必要な場合 (このポート番号を入力する場合は、[SSL を使用 (Use SSL)] チェックボックスがオンになっていることを確認してください)。 <p>LDAP サーバがグローバル カタログ サーバである場合の LDAP ポート</p> <ul style="list-style-type: none"> 3268 : SSL が不要でない場合。 3269 : SSL が必要な場合 (このポート番号を入力する場合は、[SSL を使用 (Use SSL)] チェックボックスがオンになっていることを確認してください)。 <p>ヒント 設定では、上記の項目に記載されたオプションとは異なるポート番号の入力が必要になる場合があります。[LDAP ポート (LDAP Port)] フィールドを設定する前に、ディレクトリ サーバの管理者に問い合わせ、入力する正しいポート番号を確認してください。</p>

表 13-1 LDAP 認証の設定値 (続き)

フィールド	説明
[SSL を使用 (Use SSL)]	<p>セキュリティのために SSL 暗号化を使用するには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>(注) LDAP over SSL が必要な場合は、社内ディレクトリの SSL 証明書を Cisco Unified Communications Manager にロードしておく必要があります。『Cisco Unified Communications Operating System Administration Guide』に、証明書のアップロード手順についての説明があります。</p> <p>[SSL を使用 (Use SSL)] チェックボックスをオンにした場合は、[LDAP 認証の設定 (LDAP Authentication Configuration)] ウィンドウの [サーバのホスト名または IP アドレス (Host Name or IP Address for Server)] フィールドに、社内ディレクトリの SSL 証明書に存在する IP アドレスまたはホスト名を入力します。証明書に IP アドレスが含まれている場合は、IP アドレスを入力します。証明書にホスト名が含まれている場合は、ホスト名を入力します。証明書に存在するとおり IP アドレスまたはホスト名を入力しなかった場合は、CTIManager を使用するアプリケーションなど、一部のアプリケーションに問題が発生することがあります。</p>
[他の冗長 LDAP サーバを追加 (Add Another Redundant LDAP Server)]	<p>行を追加して、この他のサーバに関する情報を入力できるようにするには、このボタンをクリックします。</p> <p>(注) このボタンにアクセスできるのは、エンドユーザの LDAP 認証が使用可能になっている場合だけです。</p>

追加情報

「関連項目」(P.13-4) を参照してください。

関連項目

- 「LDAP 認証の設定」(P.13-1)
- 「LDAP 認証の設定値」(P.13-1)
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「ディレクトリの概要」
- 「LDAP システムの設定」(P.11-1)
- 「LDAP ディレクトリの設定」(P.12-1)
- 「LDAP カスタム フィルタの設定」(P.14-1)
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「アプリケーション ユーザとエンドユーザ」
- 「アプリケーション ユーザの設定」(P.87-1)
- 「エンドユーザの設定」(P.88-1)